

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3610125381		
法人名	医療法人 栄寿会		
事業所名	グループホームひかる		
所在地	徳島市名東町1丁目91番地		
自己評価作成日	平成28年9月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成28年11月10日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ターミナルケア(見取り介護)の意識を高めています。身体的・精神的苦痛、苦勞をできるだけ緩和し、その人らしく充実し納得してもらうように日々の暮らしを大切に過ごせる事を目標として援助しています。病状の変化に伴う緊急時の対応について、隣接する協力医療機関の医師・看護師と連絡をとり対応しております。また夜間では、夜間勤務職員が緊急時連携システムにもとづき早急に医師と連絡をとって緊急対応を行っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所の運営推進会議では、利用者の暮らしの状況や活動報告、研修発表等を行っており、出席者から助言やアドバイスを得ている。会議時に出された意見等は職員間で検討し、運営面に反映している。職員は、日頃の利用者との関わりのなかで、一人ひとりの意向を把握するよう努めている。また、家族の来訪時には、利用者の健康状態や暮らしぶりを伝え、希望等を聞くようにしている。全職員で、利用者や家族の意向や希望を支援の内容に反映するよう努めており、本人が安心して生活することができるよう努めている。同一法人の運営する医療機関と密に連携を図り、迅速な医療受診のほか、緊急時の適切な対応等が可能な体制を構築している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、日頃から理念を共有し、入居者の介護等に活かせるように務めている。	管理者と職員で理念について話し合っており、地域との交流や利用者の自立を重視し、理念を踏まえた支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学生や保育所の子供達の訪問があり、栄寿会の運動会にも参加され、お遊戯を発表される等交流をもっている。また、町内会の防災訓練等にも参加しています。	事業所では、町内会の一員として防災訓練等の地域活動に参加している。利用者と職員は、近隣の幼稚園や小学校の運動会等の行事に出向くなどしている。保育所の子どもや小学生の来訪も受け入れており、相互に交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に出席頂いた時に、町内会会長さんや長寿会会長さんに、職員が外部研修等に参加した時の報告等を議題とし、発表し地域の方にも報告してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービス内容や現状の報告を行い、意見交換等を行っている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者の状況や研修会等の報告を行うなどして、出席者から質問や意見、助言が出してもらい、活発な話し合いを行っている。出された意見等をサービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、実績報告書を提出する時に、担当者の方と情報交換をおこなっている。	毎月、市担当窓口に出向くなどして、事業所の現状や取り組みを報告し助言等を得ている。市担当者と相談や連携を図ることができるよう顔の見える関係を整えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、夜9時から翌朝6時迄としています。日中は、開錠して自由に入出りが出来るようになっています。	事業所では、職員一人ひとりが身体拘束の弊害を理解することができるよう研修等の機会を設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員内部研修にて、身体拘束廃止(虐待防止)について毎年学んでいます。参加出来なかった職員には、参加した職員から伝達を行い、身体拘束について理解し取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内での内部研修や外部研修に参加し、必要な時には法人内にある専門職と共同して、家族への支援が出来る様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には、本人や家族に丁寧な説明を行っている。また、いつでも解約出来る事を併せて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。また、管理者や職員に、利用者が気軽に言ってもらえるようにしている。意見や要望等があれば、対策を検討し対処している。	事業所では、家族の来訪時に意向や希望を表出してもらうことができるような雰囲気づくりに努めている。出された意見等は、管理者と職員間で話し合い、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	大事な事柄に関しては、現場の意見を取り入れている。	管理者は、日頃の利用者との関わりのなかで、職員の意見や提案、アイデアを聞くようになっている。出された提案等は職員間で話し合って運営面に反映している。代表者は、全職員が意欲をもって働くことができるよう職場環境や就労条件等の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給料は、昇給時に考慮している。また、労働時間は、週40時間を遵守している。親睦会等の費用を一部負担している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部職員研修または、外部研修にも交代で参加してもらい、より良いケアを目指し実践に取り組めるよう心掛けている。また、介護福祉士やケアマネージャーの育成のため勉強会を開催し、積極的に人材育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症実践研修・リーダー研修等の外部研修に参加し、他の事業所からお互いに見学実習を受け入れたり行ったりしている。また、看護学生も実習に来られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時に面接を行い、困っていることや要望を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時に、要望等を聞いている。また、利用開始後も不安に思っていることを聞き、介護に活かすように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の方に、家庭での生活状況や性格等を教えてもらいケアプランに反映している。また、他の事業所から移られた時には、医療情報や生活情報を参考にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	15時のおやつの際に職員も話をしながら利用者さんと一緒に摂るようにしている。また、洗濯物を一緒に畳んでもらい、楽しく話をしながらおこなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が面会に来られた時に、要望を聞くと共に、ホームでの生活状況を知ってもらっている。家族と共に入居者様が支えて行ける様に、努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や馴染みの方が気軽に来訪してくれている。	事業所では、家族や友人、知人の来訪を快く受け入れており、お茶などを用意するなどしてゆっくりと過ごしてもらえよう配慮している。利用者の希望等に応じて、馴染みの場所に出かけることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が声かけをしたり、体操等、またおやつを通じた皆が楽しめる場を作っている。利用者が孤立しないように支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の施設や事業所に移られた方には、時折面会に行き、様子をお伺いしている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話から、希望などを聞き把握している。	職員は、日頃の利用者との関わりのなかで、思いや希望を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	カンファレンス時には、状況等を話合っ把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	重要な事は、申し送りや個別の記録、連絡帳ノートに記載し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にカンファレンスを行い、本人や家族から要望や希望をお聞きし、介護計画に取り入れている。	事業所では、日頃の介護記録等を参考にしつつカンファレンスを行っている。本人や家族の意向を反映した介護計画を作成している。利用者の心身状況等の変化に応じて、介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別の介護記録に記載している。重要なことは、連絡ノートに記載し、情報は、職員間で共有している。また、カンファレンスを行い介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて、柔軟に対応出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の理髪店の方が、2ヶ月に1回来訪して散髪をしてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制を整備して、入居者の方は、全員協力医療機関の医師がかかりつけ医師からの指示をもらっている。	事業所の連携する医療機関と協力し合い、医療連携体制を整備している。月3回、医療機関の医師による往診がある。また、職員に看護師がおり、適切な医療を受けることができるよう体制を整備している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師資格を保有する職員がいるため、いつでも気軽に相談出来る。変化が見られた時には、看護師に相談し医師からの指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関の医師と連携し、情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族の方に病状等の説明を行い、急変時や終末期の要望を聞いている。	事業所では、重度化した場合の対応や方針に関する指針を作成している。本人や家族には、契約時に説明するなどして方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、また、内部研修でも学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間・休日を想定した避難訓練を年2回実施している。また、消防署の協力を得て、AEDの操作方法や蘇生法、地震時の対応方法などについて学習している。また、町内会の防災訓練にも参加している。	年2回、事業所では消防署の協力を得るなどして、避難訓練を行っている。職員は消火器やAEDの操作方法、蘇生法についても学んでいる。災害時に備えて必要な物品の備蓄も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の誇りやプライバシーを、傷つけない言葉使いや介護を行っている。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重した支援を行っている。トイレへの誘導時には、声かけの方法やさりげない誘導等に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと分かり易く説明をし、自己決定が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで自由に過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気に入った服装をしてもらっている。季節に合わない服装をしている時には、さりげなく声かけをして、居室で着替えて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りのおやつを提供を心がける。お盆拭きや洗濯物等は利用者さんとともに行う。	同一法人の運営する他サービス事業所の厨房で食事を作っている。事業所では、運びこんだ食事を盛り付けるなどしている。利用者一人ひとりの力量に応じて、食卓やお盆拭きなどの役割を担ってもらっている。職員は、利用者を見守りつつ、食事介助を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の厨房より食事が提供され、盛り付けは職員が個々の食事形態に合わせて刻んだり、ミキサーにかけている。水分は、ペットボトルにお茶等を入れいつでも飲めるよう提供、10時と15時のお茶の時間、食事の時もお茶を飲んでもらっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいの声かけをして、洗面所へ誘導して確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット 1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握している。排泄に失敗して衣類を汚した時には、プライドを傷つけないように、声かけを行いながら、更衣介助をしている。また、トイレへの移動が間に合わない方には、居室にポータブルトイレを設置している。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレへのさり気ない誘導を心がけている。利用者の心身状況に応じて、紙パンツやパットを活用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操のDVDを使い職員が前で手本となり機能訓練へ参加していただき、適度な運動を心がけている。また、水分補給時に牛乳や手作りのヨーグルトを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくり入浴を楽しんでもらうため、午前・午後に分かれて解除している。外食、外泊にも対応。また、ユニット1は月・水・金、ユニット2は火・木・土、そして日曜日以外は毎日利用できるよう配慮している。	事業所では、少なくとも週3回は入浴することができるよう支援している。本人から希望があれば毎日入浴することもできる。季節ごとに入浴剤を変えるなどして、入浴が楽しみなものとなるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースで過ごしてもらっている。昼間に眠りたい方は、居室で休んでもらっている。また、夜間の巡回時は、大きな音を出さないように気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人毎の薬のファイル(用量・効能・副作用)が作成されている。協力医療機関で扱っている薬のリストもある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ・御盆拭き等の役割分担をもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	随時、季節の花見や外食を楽しんでいる。また、家族の協力で外出し食事や買い物を楽しまれている。	利用者と職員で近隣の神社に出かけたり、花見に行ったりしている。家族の協力を得たうえで、外食や買い物に出かけることができるよう支援している。	



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			ユニット 1 実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方と共に相談し、利用者一人ひとりの能力に応じて、小遣い程度の小額を持って頂いている方もいる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人への電話や手紙を出す支援をしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの窓からは、植物が緑のカーテンとなり癒しの空間となっている。また、ホールや通路の壁には季節の物職員が手作りで飾っている。		共有空間には、暖かい日差しが差し込んできており、窓越しに外の景色を眺めることができるようソファを設置するなどしている。トイレや洗面所等も清潔さを保持するよう環境整備に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の方が、ホールや食堂等、それぞれ気に入った場所で話をされている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や食器等、日頃から使い慣れた物を持って来て頂いている。		事業所では、利用者の使い慣れた家具を居室に持ち込んでもらっている。本人が使いやすいよう、配置にも配慮している。利用者と家族、職員間で相談し、一人ひとりが落ち着いて居心地良く過ごすことができるよう話し合っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・廊下・浴室には、手摺を設置している。また、トイレの便器は立ち上がりやすいように、洋式となっている。			

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、日頃から理念を共有し、入居者の介護等に活かせるように務めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学生や保育所の子供達の訪問があり、栄寿会の運動会にも参加され、お遊戯を発表される等交流をもっている。また、町内会の防災訓練等にも参加しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に出席頂いた時に、町内会会長さんや長寿会会長さんに、職員が外部研修等に参加した時の報告等を議題とし、発表し地域の方にも報告してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、サービス内容や現状の報告を行い、意見交換等を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、実績報告書を提出する時に、担当者の方と情報交換をおこなっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、夜9時から翌朝6時迄としています。日中は、開錠して自由に入出りが出来るようになっています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員内部研修にて、身体拘束廃止(虐待防止)について毎年学んでいます。参加出来なかった職員には、参加した職員から伝達を行い、身体拘束について理解し取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内での内部研修や外部研修に参加し、必要な時には法人内にいる専門職と共同して、家族への支援が出来る様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際には、本人や家族に丁寧な説明を行っている。また、いつでも解約出来る事を併せて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。また、管理者や職員に、利用者が気軽に言ってもらえるようにしている。意見や要望等があれば、対策を検討し対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	大事な事柄に関しては、現場の意見を取り入れている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給料は、昇給時に考慮している。また、労働時間は、週40時間を遵守している。親睦会等の費用を一部負担している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部職員研修または、外部研修にも交代で参加してもらい、より良いケアを目指し実践に取り組めるよう心掛けている。また、介護福祉士やケアマネージャーの育成のため勉強会を開催し、積極的に人材育成に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症実践研修・リーダー研修等の外部研修に参加し、他の事業所からお互いに見学実習を受け入れたり行ったりしている。また、看護学生も実習に来られている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時に面接を行い、困っていることや要望を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時に、要望等を聞いている。また、利用開始後も不安に思っていることを聞き、介護に活かすように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の方に、家庭での生活状況や性格等を教えてもらいケアプランに反映している。また、他の事業所から移られた時には、医療情報や生活情報を参考にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	15時のおやつの際に職員も話をしながら利用者さんと一緒に摂るようにしている。また、洗濯物を一緒に畳んでもらい、楽しく話をしながらおこなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方が面会に来られた時に、要望を聞くと共に、ホームでの生活状況を知ってもらっている。家族と共に入居者様が支えて行ける様に、努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や馴染みの方が気軽に来訪してくれている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が声かけをしたり、体操等、またおやつを通じた皆が楽しめる場を作っている。利用者が孤立しないように支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の施設や事業所に移られた方には、時折面会に行き、様子をお伺いしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話から、希望などを聞き把握している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	カンファレンス時には、状況等を話合って把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	重要な事は、申し送りや個別の記録、連絡帳ノートに記載し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にカンファレンスを行い、本人や家族から要望や希望をお聞きし、介護計画に取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別の介護記録に記載している。重要なことは、連絡ノートに記載し、情報は、職員間で共有している。また、カンファレンスを行い介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて、柔軟に対応出来る様になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の理髪店の方が、2ヶ月に1回来訪して散髪をしてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制を整備して、入居者の方は、全員協力医療機関の医師がかかりつけ医師からの指示をもらっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師資格を保有する職員がいるため、いつでも気軽に相談出来る。変化が見られた時には、看護師に相談し医師からの指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関の医師と連携し、情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族の方に病状等の説明を行い、急変時や終末期の要望を聞いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、また、内部研修でも学習している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間・休日を想定した避難訓練を年2回実施している。また、消防署の協力を得て、AEDの操作方法や蘇生法、地震時の対応方法などについて学習している。また、町内会の防災訓練にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の誇りやプライバシーを、傷つけない言葉使いや介護を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと分かり易く説明をし、自己決定が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで自由に過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気に入った服装をしてもらっている。季節に合わない服装をしている時には、さりげなく声かけをして、居室で着替えて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りのおやつを提供を心がける。お盆拭きや洗濯物等は利用者さんとともにやる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の厨房より食事が提供され、盛り付けは職員が個々の食事形態に合わせて刻んだり、ミキサーにかけている。水分は、ペットボトルにお茶等を入れいつでも飲めるよう提供、10時と15時のお茶の時間、食事の時もお茶を飲んでもらっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいの声かけをして、洗面所へ誘導して確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握している。排泄に失敗して衣類を汚した時には、プライドを傷つけないように、声かけを行いながら、更衣介助をしている。また、トイレへの移動が間に合わない方には、居室にポータブルトイレを設置している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操のDVDを使い職員が前で手本となり機能訓練へ参加していただき、適度な運動を心がけている。また、水分補給時に牛乳や手作りのヨーグルトを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ゆっくり入浴を楽しんでもらうため、午前・午後に分かれて解除している。外食、外泊にも対応。また、ユニット1は月・水・金、ユニット2は火・木・土、そして日曜日以外は毎日利用できるよう配慮している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースで過ごしてもらっている。昼間に眠りたい方は、居室で休んでもらっている。また、夜間の巡回時は、大きな音を出さないように気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人毎の薬のファイル(用量・効能・副作用)が作成されている。協力医療機関で扱っている薬のリストもある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ・御盆拭き等の役割分担をしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	随時、季節の花見や外食を楽しんでいる。また、家族の協力で外出し食事や買い物を楽しまれている。		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット 2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の方と共に相談し、利用者一人ひとりの能力に応じて、小遣い程度の小額を持って頂いている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人への電話や手紙を出す支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの窓からは、植物が緑のカーテンとなり癒しの空間となっている。また、ホールや通路の壁には季節の物職員が手作りで飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の方が、ホールや食堂等、それぞれ気に入った場所で話をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や食器等、日頃から使い慣れた物を持って来て頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・廊下・浴室には、手摺を設置している。また、トイレの便器は立ち上がりやすいように、洋式となっている。		